

小 学 校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

研究主題	1
I 研究主題設定の理由	
II 研究の視点	
III 研究仮説	
IV 研究の方法	
V 研究の内容	
第3 学年及び第4 学年分科会研究主題	
I 分科会研究主題設定の理由	2
II 研究仮説	2
III 研究構想図	3
IV 研究の内容	4
V 実践事例	6
VI 研究の成果	8
VII 研究の課題	8
第5 学年分科会研究主題	
I 分科会研究主題設定の理由	9
II 研究仮説	9
III 研究構想図	10
IV 研究の内容	11
V 実践事例	13
VI 研究の成果	15
VII 研究の課題	15
第6 学年分科会研究主題	
I 分科会研究主題設定の理由	16
II 研究仮説	16
III 研究構想図	17
IV 研究の内容	18
V 実践事例	21
VI 研究の成果	24
VII 研究の課題	24

研究主題

調べて分かったことを関連付けて 社会的事象を深く理解する児童の育成

I 研究主題設定の理由

「小学校学習指導要領解説 総則編」（平成 29 年 6 月）では、「知識を相互に関連付けてより深く理解」するための学習が必要として、「主体的・対話的で深い学び」が説明されている¹。本研究当初にこのことに照らして授業の分析を行ったところ、「資料から情報を読み取ることはできるが、それらに関連付けて社会的事象の特色や相互の関連、意味について考え、社会的事象を深く理解している児童は少ない。」という児童の実態が見られた。このことから、調べて分かったこと（情報や知識など、学年や学習内容に応じて様々なものが含まれる）を関連付け、学習問題に対する自分の考えをもつための手だてに問題があると考え、解決策を検討した。そこで、全体主題を「調べて分かったことを関連付けて社会的事象を深く理解する児童の育成」と設定し、本研究における「社会的事象を深く理解する児童」とは、「調べて分かったことを関連付けて、社会的事象の相互の関連、特色や意味について考え、理解している」児童であると定義した。その後、このような児童の育成に必要な授業改善の方策について、発達段階や学習内容を考慮しながら、各学年の分科会で研究を進めた。

II 研究の視点

- 1 単元や題材など内容や時間のまとまりの構成
- 2 児童が調べて分かったことを関連付けて学習問題に対する自分の考えを書き、社会的事象を深く理解することができるようにするための手だて

III 研究仮説

調べて分かったことを関連付ける学習活動の充実を図った単元指導計画を作成し、授業改善を加えていけば、児童は社会的事象の特色や相互の関連、意味について考え、社会的事象を深く理解することができるようになるだろう。

IV 研究の方法

- 1 先行研究及び文献研究
- 2 仮説に基づいた検証授業、各学校での研究員の取組、及びそれらの成果と課題の検討

V 研究の内容

- 1 「授業デザイン図」を作成し、教師が三つの段階で活用し、その活用の効果について、検証授業や各学校での研究員の取組の中で検証する（作成方法や活用方法については 4 ページに記載）。

「授業デザイン図」とは、本研究において単元や題材など内容や時間のまとまりの構成をデザインしたものと定義し、①資料、②児童にもたせたい問い、③児童の予想やまとめ、④「ゴールの姿」² を整理した単元全体の構造を A4 サイズの用紙 1 枚にまとめたものとする（各分科会の「IV 研究の内容」に例を記載している。）。

- 2 調べて分かったことを関連付ける学習活動の充実を図るため、「まとめる」段階における手だてを各分科会で設定し、検証授業や各学校での研究員の取組の中でその効果を検証する。

¹ 小学校学習指導要領解説 総則編（文部科学省 平成 29 年 6 月）

² 本研究において、「単元で習得すべき知識や概念、技能を身に付けた児童が、単元の「まとめる」段階において表現する言葉」と定義する。

調べて分かったことを関連付けてまとめ、社会的事象を理解する児童の育成

I 分科会研究主題設定の理由

本分科会で1学期の授業と児童の実態について分析したところ、「まとめる」段階では半数以上の児童が各時間の調べて分かったことを列記するにとどまり、それらを関連付けてまとめることができていないという問題が見いだされた。

例えば、「地域社会における災害及び事故の防止」の学習において、「地域では、交通事故を防ぐために、誰がどのようなことをしているのだろうか」という学習問題を設定し、調べ学習の後、学習問題に対する自分の考えをまとめたところ、「警察官は見回りをしている。」「地域にはカーブミラーがある。」といった具体的な事実を単純に列記した記述が多く、警察と地域住民の連携や協力について考えたり、交通事故防止のための設備を警察や地域住民が活用していることをまとめたりしている児童は半数程度であった。

このような児童の実態について、各自の授業記録を分析したところ、調べて分かったことを関連付けてまとめるための手だてが不十分であったことが問題として見いだされた。これは、授業者が単元全体の構成を十分に検討できておらず、「ゴールの姿」に向かうために必要な資料や問いの吟味が不十分であったことによるものと考えられる。

そこで本分科会では、「授業デザイン図」を用いて毎時間の学習活動を学習問題の解決のために位置付けることや、「ゴールの姿」に到達させるために必要な資料や児童の思考や問いを促すための発問や指示を吟味することが有効ではないかと捉え、以下の2点を手だてとして、研究を行った。

1 「授業デザイン図」の作成と活用

2 「まとめる」段階における資料の再活用³及び、発問や指示の吟味

資料の再活用については、「つかむ」及び「調べる」段階で提示した資料のうち、児童に深く理解させたい社会的事象の特色や相互の関連が見いだせるものを吟味する。また、学習問題づくりや調べ学習の時には見いだすことのできなかつた、社会的事象の特色や相互の関連について、「まとめる」段階で考えさせるための発問や指示を行う。これらのことにより、児童がそれまでの学習で調べて分かったことを関連付けてまとめ、社会的事象の特色や相互の関連について考えをもつようになるのではないかと考えた。また、その考えを伝え合い、共有することで、社会的事象の理解につながるのではないかと考えた。以上のことから、分科会研究主題を「調べて分かったことを関連付けてまとめ、社会的事象を理解する児童の育成」と設定した。

II 研究仮説

教師が「授業デザイン図」に基づいた授業を行い、「まとめる」段階で、児童に資料を再活用させることや吟味した発問や指示を行うことで、児童は調べて分かったことを関連付けてまとめ、社会的事象の特色や相互の関連について考え、理解することができるであろう。

³ 本分科会の研究において、「資料の再活用」を「『つかむ』段階や『調べる』段階の授業に使った資料を児童にもう一度提示し、調べさせたり、考えさせたりすること」と定義する。

Ⅲ 研究構想図

背景

〔学習指導要領〕

資料から読み取った情報を基にして、社会的事象の特色や相互の関連などについて比較したり、関連付けたり多角的に考察したりして表現する力の充実。

〔教師の願い〕

調べて分かったことを関連付けて、社会的事象の特色や相互の関連について理解し、自分の考えをもち、表現できるようになってほしい。

〔児童の実態〕

各時間に調べて分かったことを関連付けて、社会的事象の特色や相互の関連を考えたことができない児童が多い。

〔研究員全体テーマ〕 『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善

〔小学校社会部会の研究主題〕

調べて分かったことを関連付けて社会的事象を深く理解する児童の育成

〔第3学年及び第4学年分科会研究主題〕

調べて分かったことを関連付けてまとめ、社会的事象を理解する児童の育成

仮説

教師が「授業デザイン図」に基づいた授業を行い、「まとめる」段階で、児童に資料を再活用させることや吟味した発問や指示を行うことで、児童は調べて分かったことを関連付けてまとめ、社会的事象の特色や相互の関連について考え、理解することができるであろう。

研究の内容

1 授業デザイン図の作成と活用

- 「授業デザイン図」を作成し、①「授業を構想する」段階、②「授業をする」段階、③「授業を振り返る」段階の3つの段階で活用する。

2 「まとめる」学習段階における資料の再活用及び、発問や指示の吟味

- 学習問題作りや調べ学習に使う資料を吟味し、「まとめる」段階で再活用する。
- 再活用させる際の発問や指示の吟味を行う。

目指す児童の姿

調べて分かったことを関連付けてまとめ、社会的事象の特色や相互の関連について考え、理解することができる児童

IV 研究の内容

1 「授業デザイン図」の作成と活用

(1) 「授業デザイン図」の作成

<「授業デザイン図」作成手順>

- ① 学習指導要領の内容を単元として設定する。
- ② 「まとめる」段階における「ゴールの姿」を明確にする。
- ③ 「ゴールの姿」に結び付く、問いと資料を検討する。
- ④ 「つかむ」段階で活用する資料と、学習問題を設定する。
- ⑤ 学習問題に対する児童の予想[F]を明らかにする。
- ⑥ [F]を基に立てる学習計画と、「調べる」段階の資料を吟味する。
- ⑦ [F]に基づいて調べ、分かったことを児童のまとめ[A]として明確にする。
- ⑧ 「つかむ」段階から「まとめる」段階までの資料、問い、児童の予想・まとめを概観し、児童が「ゴールの姿」に到達できるかを再度検討する。

(2) 「授業デザイン図」の活用

「授業デザイン図」は、教師が①「授業を構想する」段階、②「授業を実施する」段階、③「授業を振り返る」段階の三つの段階で活用することができる。

段階	活用の効果
「授業を構想する」	資料、問い、児童の予想・まとめ、「ゴールの姿」を一枚の図として概観することができる。教師が単元全体の構造を見渡して、児童が調べて分かったことを関連付けてまとめ、社会的事象を理解するための手だてが単元計画に十分反映されているかを確認することができる。
「授業を実施する」	単元の流れを具体的にイメージしながら授業を進めることができる。また、「授業デザイン図」内の児童の予想やまとめと実際の児童の反応とを比べることで、使用する資料や問いを再検討することができる。
「授業を振り返る」	実際の児童の記述と、「ゴールの姿」とを比べることで、教師の手だてが成果としてどの程度反映されたのかを確認することができる。また、達成できなかった部分については、どこに問題があったのかを児童の記述を基に振り返り、次単元の授業改善につなげることもできる。

2 「まとめる」段階における資料の再活用及び、発問や指示の吟味

「まとめる」段階において、学習問題について考える際に、「つかむ」段階、または「調べる」段階で提示し、活用した資料の中で、「ゴールの姿」に結び付く資料を再度提示する。その際、社会的事象の特色や相互の関連について考えるための発問や指示を行うと、児童はこれまでの学習で調べて分かったことを関連付けてまとめ、社会的事象を理解できる。

第4学年「ごみの始末と再利用」では、まず「つかむ」段階で使用した2枚の写真を「まとめる」段階で再度提示してごみ処理の方法などを整理し、学習問題について「私たちの出したごみは、区役所の人たちが集めて清掃工場やリサイクル施設に運ばれる。清掃工場では燃やされたごみは処分場に埋め立てられる。資源物はリサイクルしてもう一度使われる。」とまとめた。次に「なぜこんな手間のかかることをしてごみを処理しているのだろう。」と発問し、自分たちの生活と関連付けて廃棄物の処理について考えさせた。すると児童は、「ごみを分別して、安全に処理したりリサイクルしたりすることは、私たちが気持ちよく健康に過ごすためにとっても大切なことだ。」という考えをもつことができた。

4年 「ごみの始末と再利用」 (12 時間)

つかむ	資料	第1時	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">1970年頃のごみ集積所 (写真)</div> <div style="font-size: 2em;">↔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">現在のごみ集積所 (写真)</div> </div>		【問い】	
				<ul style="list-style-type: none"> 私たちの出したごみは、どこへ行ったのだろう。 運ばれたごみは、どうなるのだろう。 誰が集めているのだろう。 		
学習問題	予想	第2時	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> 私たちの出したごみは、誰がどこへ運んでどのように処理されるのだろう。 </div>			
		F1	F2	F3	F4	F5
調べる	問い	第3・4時	第5時	第6・7・8時	第9時	第10時
		資料	まとめ	資料	まとめ	資料
まとめる	学習問題に対する自分の考え	第11時	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">1970年頃のごみ集積所 (写真)</div> <div style="text-align: center;"> 計画 ↳ 協力的 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">現在のごみ集積所 (写真)</div> </div>			
		第12時	【発問】なぜこんな手間のかかることをしてごみを処理をしているのだろう。			

V 実践事例 単元 「ごみの始末と再利用」(12時間)

<学習指導計画と実践記録>

児童の反応	分析
-------	----

時数	○学習活動	■資料(種類)
つかむ (2時間)		
1	<p>《ねらい》 自分たちの生活から出るごみの量を知ったり、分別したりしてごみの始末について関心をもつ。</p> <p>学習課題 学校や家では、どのようなごみを、どれくらい出しているのだろう</p> <p>○学校から出るごみの種類や量を調べる。 ○家庭のごみは種類や曜日ごとに捨てる日が分けられていることについて話し合う。 ○学習の振り返りを書く。</p>	<p>■学校のごみ集積所見学 ■A区のごみ分別(表)</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>・こんなにたくさんのごみを出しているんだ。 ・出し方にも決まりがあるのだね。</p> </div>
	<p>《ねらい》 自分たちの生活から出されたごみはどのように処理されるのか話し合っって学習問題を見いだす。</p> <p>学習課題 写真を見て気付いたことや疑問に思ったことを話し合おう</p> <p>○「1970年頃のごみ集積所」の写真を見て、気付いたことを話し合う。 ○「現在の東京都のごみ集積所の朝と夕方」の様子を知り、現在のごみの処理について疑問に思うことを出し合う。</p> <p>○気付いたことや疑問から学習問題を見いだす。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>・昔は分別していなかったのかな。 ・ごみがたまと菌が増えて病気になりそう。 ・道が狭くなって、みんなが通れなくなる。 ・今のごみはどこへ運ばれていくのだろう。 ・今のごみは誰が持って行っているのだろう。</p> </div> <p>学習問題 わたしたちの出したごみは、誰がどこへ運んでどのように処理されるのだろう。</p> <p>○学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てる。</p>	<p>■1970年頃のごみ集積所(写真) ■現在のごみ集積所の朝の様子(写真) ■現在のごみ集積所の夕方の様子(写真)</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【「授業デザイン図」の活用】 「まとめる段階」の児童の姿が明確になっているので、児童の反応を生かしながらねらいに沿った学習問題とすることができた。 【資料の吟味】 昔と現在のごみ集積所の様子を比較したことで、自分たちの生活とごみの処理を考えるきっかけをつくることができた。</p> </div>
調べる (8時間)		
3 ・ 4	<p>《ねらい》 清掃事務所の人の話を聞き、ごみの処理に関わる人々の工夫や苦勞を考える。</p> <p>学習課題 清掃事務所の人たちは、ごみをどのように集めているのだろう</p> <p>○清掃事務所の方からごみの収集方法やそれに関わる工夫や苦勞についての話を聞く。 ○分別の仕方やリサイクルされるものについて知る。 ○ごみ収集車を見学する。</p>	<p>■区の清掃事務所の方へのインタビュー</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>・私たちの出したごみはA区ではないところに運ばれるなんて知らなかった。 ・最終処分場ってどこにあって、どんなことをするのだろう。 ・清掃工場ってどうやってごみを燃やしているのだろう。</p> </div>
	<p>《ねらい》 ごみや資源の種類別のゆくえを資料で調べ、集められたごみや資源がどこで始末されるかを考える。</p> <p>学習課題 分別して出したごみは、どこへ運ばれるのだろう</p> <p>○分別して出したごみはどこへ運ばれるかを予想し、話し合う。 ○ごみの種類別の処理のルート調べる。</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>・種類ごとに違う場所に運ばれているだろう。 ・最後は埋め立て処分場に行くことが分かった。 ・資源は種類別に分かれてリサイクルされているんだ。 ・不燃ごみを分別する所がないから、私たちがきちんと分別して捨てないといけない。</p> </div>	<p>■ごみのゆくえ(図)</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>【資料の再活用及び、発問や指示の吟味】 学習を通して「埋め立て処分場がいっぱいになるのではないか」、「清掃工場ではどんなことをしているのだろう」という問いをもつ児童がいた。「授業デザイン図」から、児童の問いを解決する場面を確認することができた。</p> </div>

6 7 8	<p>《ねらい》 ごみのゆくえについて、清掃工場での処理の様子を調べる。</p> <p>学習課題 清掃工場では、ごみをどのように処理しているのだろう。</p> <p>○学習課題について予想を考え、話し合う。 ○資料から清掃工場でごみを処理する仕組みを調べる。 ○もっと調べたいことや疑問を話し合い、見学の計画を立てる。 ○清掃工場を見学し、施設や働いている人の工夫や努力を調べる。</p> <p>・煙突から煙を出さないようにして環境に気を配っていたよ。 ・燃やす時に出た熱で発電をしたり温水プールを作ったりして燃やした後のものも無駄にしていなかった。 ・機械と人が分担して24時間働いていた。 ・23区内に21か所の清掃工場があって、協力してわたしたちの出したごみを燃やしていることが分かった。</p>	<p>■清掃工場のしくみ (イラスト) ■清掃工場見学</p> <p>【「授業デザイン図」の活用】 「授業デザイン図」を活用することにより、見学の視点が明確になった。また、『協力的』『計画的』などの、具体的知識をまとめて気付かせたいキーワードも無理なく単元の中に散りばめることができた。第8時では、『協力』という言葉に注目させることができた。</p>
9	<p>《ねらい》 埋め立て処分場の様子を調べ、燃え残った灰や不燃ごみが処分されていることを捉える。</p> <p>学習課題 埋め立て処分場では、どのようにごみを処理しているのだろう。</p> <p>○資料から1970年ごろと1990年ごろの埋め立て処分場の様子を調べる。 ○現在の新海面処分場の様子を調べる。 ○現在の新海面処分場の様子を知り、3枚の資料から気付いたことや考えたことを話し合う。</p> <p>・昔から汚染水や害虫に気を付けて、消毒をしていたんだ。 ・埋め立て処分場がだんだんきれいになってごみが見えなくなってきた。 ・昔の人が工夫したから今のような処分場になったんだね。 ・私たちがもっと分別したり工夫したりしたら、未来の処分場がもっとよくなるかもしれない。</p>	<p>■埋め立て処分場 (写真)</p> <p>【「授業デザイン図」の活用】 「授業デザイン図」を活用することで、単元の中で『計画的』という概念を児童に気付かせる場面が弱いことに気付いた。そこで、第9時は昔から現在の埋め立て処分場の写真を3枚使用し、その変化を読み取らせることで、現在のごみ処理の工夫だけでなく『計画的な取組』にも注目させることができた。</p>
10	<p>《ねらい》 リサイクル施設で資源を処理する様子を調べ、資源を処理する仕組みを捉える。</p> <p>学習課題 資源はどのようにしてリサイクルされているのだろう。</p> <p>○資料から缶のリサイクル工場での処理の仕方を調べる。 ○リサイクル工場で働く人の工夫や苦勞を知る。 ○「A区リサイクル展示場」の様子を知り、自分たちの出した資源も再利用されていることを知る。</p>	<p>■リサイクル工場の処理の様子 (写真) ■リサイクル工場で働く人の話 ■A区リサイクル展示場 (写真)</p>
まとめる (2時間)		
11	<p>《ねらい》 自分自身の生活とごみ処理との関わりについて考える。</p> <p>学習課題 私たちの出したごみは、誰がどこへ運んでどのように処理されるのだろう。</p> <p>○資料を見て、これまでの学習を振り返る。 ○学習問題についての自分の考えをノートに書く。 発問「なぜこんな手間のかかることをしてごみを処理しているのだろうか。」 ○学習感想を書く。</p> <p>私たちの出したごみは、清掃事務所の人が清掃工場に運ぶ。灰になったり、スラグになったりしたものを埋め立てたり再利用したりする。ごみをきちんと処理することは、みんなが健康にくらすために大切なことだと分かった。</p>	<p>■1970年頃のごみ集積所 (写真) ■現在のごみ集積所の朝の様子 (写真) ■現在のごみ集積所の夕方の様子 (写真)</p> <p>【資料の再活用】学習問題づくりで提示した資料を再提示したことで、学習内容を想起させることができた。このことにより、1単位の学習で気付いた事実を『協力的』や『計画的』という概念と結び付けて考えさせることにつながった。 【問いの吟味】「なぜ、こんな手間のかかることをしてごみを処理しているのだろうか」と発問したことで、ごみの適切な処理は自分たちの健康な生活に関わっていることを考えることができた。</p>
12	<p>《ねらい》 ごみを減らすために自分たちが協力できることを考える。</p> <p>学習課題 ごみを減らすために自分たちが協力できることを考えて話し合おう。</p> <p>○前時までの学習を想起する。 ○ごみを減らすために自分が協力できることを考え、話し合う。</p> <p>ごみ処理に関わる人たちは、昔から計画的に困ったことを少しずつ解決している。私は「一人1日100gごみを減らすだけで処分場が長持ちする」ということを思い出して人に任せるのではなく、自分から行動してごみを減らすことを心掛けていきたい。</p>	<p>「自分たちを含めた人々の協力」や「昔から未来に向けての計画的な取組」についても理解し、考えることができた。これは、資料を再活用し発問を吟味したことで児童が単元全体の学習を構造的に振り返ることができたからだと考えられる。</p>

VI 研究の成果

1 「授業デザイン図」の作成と活用

「授業デザイン図」を作成することで「ゴールの姿」と「何を調べさせればよいか」が明確になった。児童の単元末のまとめを「ゴールの姿」に近付けるためにどのような資料を提示し、どのような発問や指示を行えばよいか検討し、改善することができた。

「授業デザイン図」を活用して授業を行うことで、児童の思考の変容を丁寧に見取ることができた。第3学年の実践「わたしたちのくらしと買い物」では、9割以上の児童が「ゴールの姿」に近づくことができた。ゴールを達成できたかどうかの判断は、「授業デザイン図」に示した「ゴールの姿」、もしくはそれに近い記述や発言が単元の終末に見られたかどうかで判断した。

<第3学年「わたしたちのくらしと買い物」におけるA児の表現についての分析>

	単元始め	単元終末
A児	売れ残りの商品があった場合、「賞味期限が切れた商品はお客さんに売れないから捨てるしかない」という考えにとどまり、お店側の考えにまで至らなかった。（下線部が児童の反応）	「売れ残ったらお店の人が困る」という考えになり、「 <u>お店の人は工夫をしているのに、売れないから困る</u> 」、「 <u>野菜を取り寄せているのに</u> 」など、社会的事象を関係付けて因果を考えられるようになった。（下線部が児童の反応）

理解が十分でない児童に対しても、「お店の人は誰のためにどんな工夫をしているのか？」と、発問したり、お店の人が行う工夫の目的に着目するよう指示したりするなど、効果的な支援を行うことができた。

2 「まとめる」段階における資料と問いの吟味

第4学年「ごみの始末と再利用」の実践において、学習問題に対する自分の考えをまとめた後に、学習問題づくりに使った写真資料を提示した。さらに「なぜこんな手間のかかることをしてごみを処理をしているのだろう。」と発問し、問いを児童にもたせることで、単元始めの「ごみが処理されないと、人々の生活はどうなるのだろうか」という疑問に再度着目させることができた。その結果、「ごみの始末は、計画的・協力的に行い、人々の健康の保持と安全安心な生活を営むことに通じている」ことに気付く児童が多くいた。また、「ごみの減量のために自分たちにできることを考える」という「選択・判断する」学習活動においては、8割以上の児童が調べて分かったことをまとめた内容を基にして、自分の考えを書くことができた。

<B児の記述>

わたしは、いつも普通にごみを出しているけれど、出した後はたくさんの人々が工夫や努力をしていることが分かった。処理場で働いている人々は、衛生的に処理をするための工夫や埋め立て処分場の限界についての対応策について考えているので、私はごみの減量を心がけようと思った。（下線部が主な評価記述部分）

VII 研究の課題

「まとめる」段階における資料の再活用及び、発問や指示については、単元や教材によって異なるため、今後も研究を続けていく必要がある。

調べて分かったことを関連付けて、 社会的事象の意味について考えるための指導の工夫

I 分科会研究主題設定の理由

主題の設定にあたり、1学期に実施した授業内容や児童の実態について分析を行った。「米づくりのさかんな地域」の学習において、「調べる」段階の1単位時間ごとの学習のまとめを分析した結果、「農家の方は、安全に食べられるお米を作るために工夫している」、「機械化が進んだことで、作業時間が短くなっている」、「安心して食べてもらえる米づくりをしている」、「米づくりをする人は年々、減っている」など、1単位時間の中で学んだ社会的事象の情報は理解することができていた。しかし、「米づくりのさかんな地域では、人々がどのような工夫や努力をして、米を生産しているだろう」という学習問題に対する自分の考えを書かせると、複数の情報を結び付け社会的事象の意味まで書いている児童は2割程度であり、多くの児童は、「調べる」段階で分かった社会的事象の情報を羅列するだけであった。このことから、調べて分かったことを関連付け、社会的事象の意味について十分に考えることができていないという学級の実態が明らかになった。

この実態について更に分析、検討したところ、ノートに記録した1単位時間のまとめを振り返り、学習した複数の情報を関連付けて考えさせたり、学習した複数の情報を関連付けて考えさせたりするための、教員の手だてが不十分であったことが原因であると判明した。そこで、この実態を改善するための授業改善を図るための検討を行った。「小学校学習指導要領解説 社会編」(平成29年6月)には、「児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、調べ考え表現する授業を実現するためには、教師の教材研究に基づく学習問題の設定や発問の構成、地図や年表、統計など各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する活動などを工夫することが大切」と示されている⁴。このことを基に検討を重ね、児童が調べて分かったことを関連付けて、社会的事象の意味について考えるために、以下の二点を手だてとして研究することとした。

- 1 「授業デザイン図」の作成と活用
- 2 1単位時間ごとに書いた情報を整理して1枚のワークシートに記録し、単元の終末に線で結び比較・関連・総合したり、枠で囲み分類したりして関連付け、社会的事象の意味を考えるための図(以下、「関係図」とする)の活用。

以上のことから、第5学年分科会では研究主題を「調べて分かったことを関連付けて、社会的事象の意味を考えるための指導の工夫」と設定した。

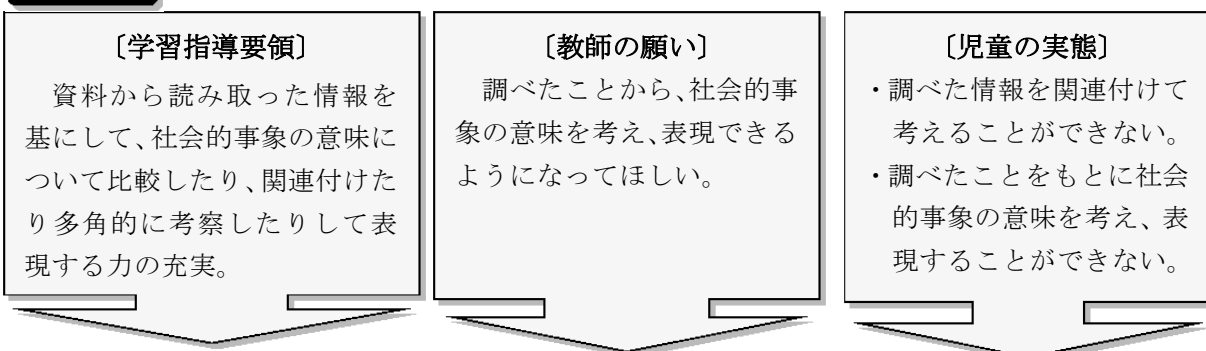
II 研究仮説

児童が資料から読み取った情報を付せんに書き、単元の終末に「関係図」にまとめ、関連付けることで、社会的事象の意味について考えることができるだろう。

⁴ 「小学校学習指導要領解説 社会編 (文部科学省 平成29年6月)

Ⅲ 研究構想図

背景



〔研究員全体テーマ〕 『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善

〔小学校社会部会の研究主題〕
調べて分かったことを関連付けて社会的事象を深く理解する児童の育成

〔第5学年分科会研究主題〕
調べて分かったことを関連付けて、
社会的事象の意味について考えるための指導の工夫

仮説

児童が資料から読み取った情報を付せんに書き、単元の終末に「関係図」にまとめ、関連付けることで、社会的事象の意味について考えることができるだろう。

研究の内容

1 「授業デザイン図」の作成と活用

○「授業デザイン図」を作成し、1「授業を構想する」段階、2「授業をする」段階、3「授業を振り返る」段階の三つの段階で活用する。

2 「関係図」の作成と活用

○調べて分かった情報を関係付け、社会的事象の意味について考えることができるようにするために、「関係図」を作成する。

目指す児童の姿

調べて分かったことを関連付けて、社会的事象の意味や特色について考え、表現できる児童

IV 研究の内容

1 「授業デザイン図」の作成と活用

(作成の手順や活用方法は、4ページに掲載。「授業デザイン図」は、12ページに掲載。)

2 「関係図」の作成と活用

「関係図」は、単元の「まとめる」段階で1単位時間に調べて分かった情報を付せんに書き留めるため、一度に全て見たり、ワークシート上で動かすことができ、児童一人一人の考えに応じて、複数の情報を線で結んだり、枠で囲み分類したりすることができる。教師が「関係図」を通して児童の考えを的確に見取ることができるようにするために、「関係図」のモデルを作成した上で、児童に調べて分かったことを関係図に整理させることで、社会的事象の意味について言い表すことができると考えた。

<「関係図」作成の手順>

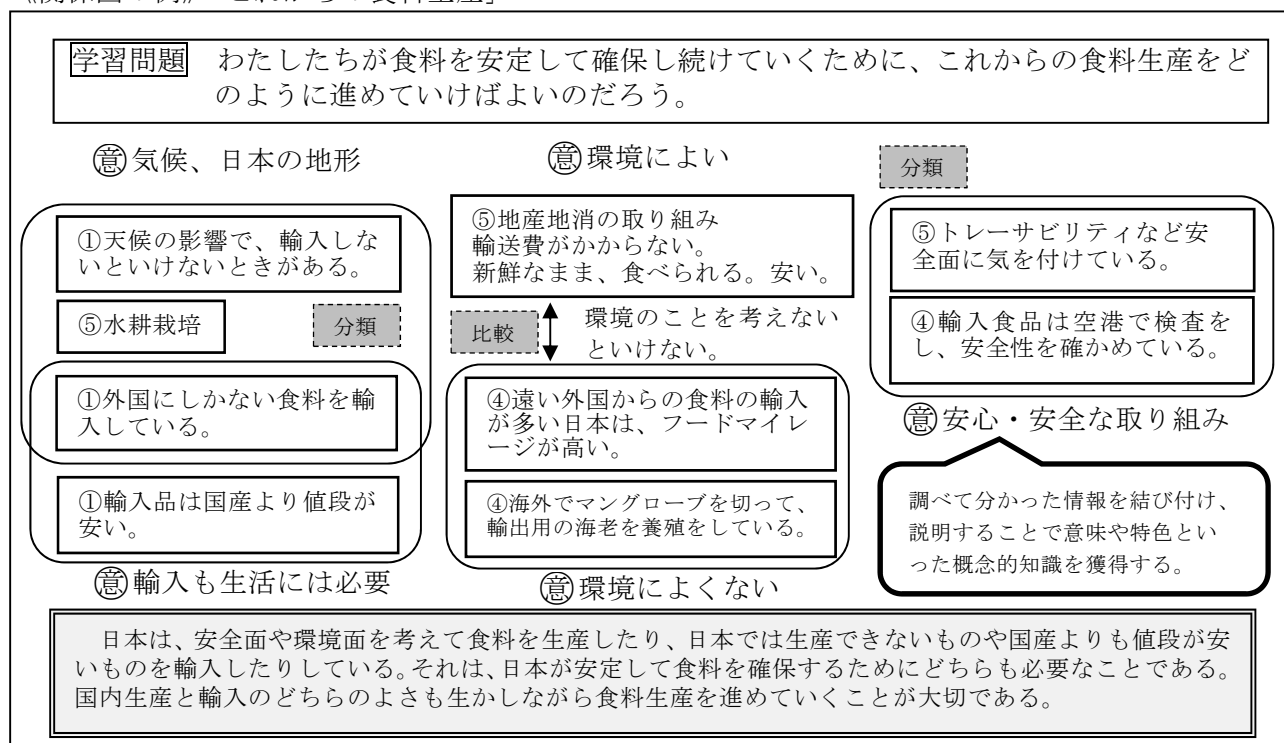
- ① 各1単位時間の学習で調べて分かった情報を付せんに書く。
- ② 付せんに1枚のワークシートにまとめ「関係図」を作成する。
- ③ 「関係図」作成後、ペアやグループで作成した「関係図」について意見を交流する。
- ④ 「関係図」を基に、学習問題に対する自分の考えを書く。
- ⑤ 学級全体でどのような意味について考えられたのかを確認し、学習のまとめを考える上で大切な内容を押さえる。

また、「関係図」を作成する際に以下のような決まりを設けて実践を取り組んだ。

<「関係図」を作成する時の決まり>

付せんに書く内容	付せんに、資料から読み取った情報を書く。
関連付けるポイント (線の結び方)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ←→ 反対 ・ → 原因と結果、時の流れ ・ ——— 似ている ・ □ 共通している、分類
関連付けた理由を表す	結んだ線のそばに、事象相互の関係を表す言葉を書き込む。
学習問題に対する自分の考え	毎時間のまとめを比較・分類・関連・総合させることで考えられる意味を書く。

《関係図の例》「これからの食料生産」



意 → 意味、 → 関連付け

つかむ	第1時	<p>一般家庭の夕食 (絵)</p>	<p>【問い】 ある日の夕食の食料は、どれくらい国内で生産されているのだろう。</p>	<p>日本の主な国の食料自給率 (グラフ)</p>	<p>【問い】 日本の自給率はどのように変化しているのだろう。</p>
	資料	<p>わたしたちが食料を安定して確保し続けていくために、これからの食料生産をどのように進めていけばよいのだろう</p>			
学習問題	第2時	<p>F1 国内生産と同じくらい輸入も必要だからかな。</p>	<p>F2 輸入の割合も増えないから、輸入にも何か問題があると思う。</p>	<p>F3 輸入に負けないように国内でも食料生産の工夫をしているからだと思う。</p>	
予想	第3時	<p>《輸入する良さや必要性》 輸入はいったいどのようなよさがあるのだろう。</p>	<p>《輸入に対する課題》 輸入にはどのような課題があるのだろう。</p>	<p>《国内生産を高めるための対策》 国内生産では、どのような取組をしているのだろう。</p>	
調べる	資料	<ul style="list-style-type: none"> ・給食食材の産地表示 ・栄養士さんのお話 ・国産と輸入作物の値段の比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・フードマイレージ (グラフ) ・海老の養殖 (写真) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消の取組み (写真) ・トレーサビリティ (写真) 	
	問い	<p>A1 輸入しているのは、国内で作るよりも安く食料を仕入れることができる。外国にしかないものを手に入れることができる。輸送技術の発達によって、新鮮なまま食料を輸入できるようになった。</p>	<p>A2 日本への海老を輸出するために海外では、マングローブの木を切って養殖しているため、環境への影響がある。遠い外国からたくさんの食料を輸入すると、輸送のための燃料を多く使うことになり、環境への影響がある。外国からの食料の輸入が多い日本は、フードマイレージが高い。</p>	<p>A3 トレーサビリティなど、安全に配慮した食料生産を行っている。地域産業の発展、環境面を配慮した地産地消の取組を行っている。</p>	
まとめ	まとめ	<p>第6時 関係図を基にして、学習問題に対する自分の考えを書こう。</p> <p>輸入では、日本ではとれないものや国産より安いものが手に入る。輸入しないと食料不足になってしまうので買う。国内生産では新たな技術を使用し、安心・安全な食料を作るために努力している。日本の食料自給率が安定しているのは、安定して食料を確保するために輸入したり、国内でも輸入に頼りすぎないように、コストを下げるなどの工夫や努力をしたりながら生産しているからである。</p>			
学習問題に対する自分の考え	第7時	<p>【問い】 これからの食料生産はどのように進めていけばよいのだろうか。</p>			
		<p>日本は、安全面や環境面を考えて食料を生産したり、日本では生産できないものや国産よりも値段が安いものを輸入したりしている。それは、日本が安定して食料を確保するためにどちらも必要なことである。国内生産と輸入のどちらのよさも生かしながら食料生産を進めていくことが大切である。</p>			

V 実践事例 単元 「これからの食料生産」(7時間)

<学習指導計画と実践記録>

児童の記述

分析

時数	○学習活動 ・ 児童の反応	■資料 (種類)
つかむ (2時間)		
1	<p>《ねらい》 身近な食料の自給率や輸入する食料が増えた理由などを調べ、学習問題を見いだす。</p> <p>学習課題 学習問題を見だし、我が国の食料生産について考えよう。</p> <p>○これまでの農業や漁業の学習について振り返る。 ○ある日の夕食を出し、そのうちどれくらいが国内でまかなえているかを考える。 ○主な国の食料自給率のグラフの資料を読みとり、食料生産にみられる課題を理解する。 ○学習問題を見いだす。</p> <p>学習問題 わたしたちが食料を安定して確保し続けていくために、これからの食料生産をどのように進めていけばよいのだろう。</p> <p>○学習の振り返りを書く。</p>	<p>■実際の夕食 (写真) (白米、味噌汁 (大豆)、ハンバーグ (肉)、えびフライ (魚・小麦)、サラダ (野菜))</p> <p>■主な国の食料自給率 (グラフ)</p>
	<p>《ねらい》 学習問題に対する予想をして、それらの問題を解決するために学習計画を立てる。</p> <p>学習課題 学習問題について予想し、学習計画を立てよう。</p> <p>○学習問題に対する予想を考える。 ○学習計画を立てる。 (1) 明らかにしたいことを考える。 (2) 学級全体で話し合い、明らかにしたいことを整理する。</p>	<p>《明らかにしたいこと》</p> <p>① 輸入する必要性を追究する。 ② 輸入についての課題を追究する。</p>
調べる (3時間)		
3	<p>《ねらい》 給食の食材がどこから来ているのか調べ、なぜ外国から輸入しているかを理解することで、我が国の食料の安定的な確保が、外国からの食料の輸入にも支えられていることを理解する。</p> <p>学習課題 輸入の必要性について調べよう。</p> <p>○「給食の食材表示」の表を見て、分かったことや考えたことを書く。 ○なぜ魚がほとんど外国産なのか予想する。 ○栄養士さんになぜ魚がほとんど外国産のものを使っているのか話を聞く。 ○国産と輸入作物の値段の資料を見て、給食の話と日本の食料生産を関連付けて、なぜ日本は外国から輸入しているのかを考える。 ○調べて分かったことを「関係図」に書く。</p> <p>給食で輸入した魚を使っているのは、なるべく国産のものを使いたいけれど、値段が高いから輸入していることや、天候の影響で外国から輸入しなければいけないこと、外国でしか獲られていないものがあるからということが分かった。でも、輸入している品物も国の検査を合格しているものであることが分かった。</p>	<p>■給食の食材表示 (表) ■栄養士さんのお話 (文章) ■国産と輸入作物の値段 (グラフ) ■アメリカでの大規模経営 (写真)</p> <p>・栄養士さんのお話から、給食で輸入している食料について知り、輸入の必要性を児童が理解することができた。その後「国産に比べて価格が安い」、「天候の影響で輸入が必要」、「日本では生産できないものを輸入している」ことを付せんに書き、関係図に貼った。 ・「授業デザイン図」を見ると、「輸送技術の発達によって新鮮なまま食料を輸入できるようになった」が抜けていたので、次時で学習するように指導計画を修正した。</p>
	<p>《ねらい》 外国からの食料の輸入による影響を、フードマイレージや海老の養殖などの環境面と、輸送の技術や空港での検査などの安全面から考える。</p> <p>学習課題 輸入の課題について調べ、考えをまとめよう。</p> <p>○「主な食料の輸入先」と「主な食料の輸入量」のグラフを見て分かったことや考えたことをノートに書く。 ○「フードマイレージ」について調べ、環境への影響について考える。 ○輸入食品が、空港で検査されている写真を見て感じたことを書く。 ○調べて分かったことを「関係図」に書く。</p> <p>日本は、遠くの国からも食料を輸入している。だから、日本はフードマイレージが他国に比べて高い。遠くから輸入すると、フードマイレージが上がり、環境にも影響する。輸入するときには、お金もかかるし、排気ガスも出している。</p>	<p>■主な食料の輸入先 (グラフ) ■主な食料の輸入量 (グラフ) ■フードマイレージ (グラフ)</p> <p>・「関係図」には、「遠くからたくさん食料を輸入している」、「日本は外国と比べてフードマイレージが高い」を付せんに書き、「関係図」に貼った。</p>
4	<p>《ねらい》 外国からの食料の輸入による影響を、フードマイレージや海老の養殖などの環境面と、輸送の技術や空港での検査などの安全面から考える。</p> <p>学習課題 輸入の課題について調べ、考えをまとめよう。</p> <p>○「主な食料の輸入先」と「主な食料の輸入量」のグラフを見て分かったことや考えたことをノートに書く。 ○「フードマイレージ」について調べ、環境への影響について考える。 ○輸入食品が、空港で検査されている写真を見て感じたことを書く。 ○調べて分かったことを「関係図」に書く。</p> <p>日本は、遠くの国からも食料を輸入している。だから、日本はフードマイレージが他国に比べて高い。遠くから輸入すると、フードマイレージが上がり、環境にも影響する。輸入するときには、お金もかかるし、排気ガスも出している。</p>	<p>■主な食料の輸入先 (グラフ) ■主な食料の輸入量 (グラフ) ■フードマイレージ (グラフ)</p> <p>・「関係図」には、「遠くからたくさん食料を輸入している」、「日本は外国と比べてフードマイレージが高い」を付せんに書き、「関係図」に貼った。</p>

5	<p>《ねらい》 我が国で行われている食料生産に携わる人々の新たな工夫や努力、地産地消などの取組について調べ、食料を安定して確保するためにどのようなことをしているかを理解する。</p>					
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 280 965 336"> <p>学習課題 国内生産で取り組んでいる工夫について調べよう。</p> </td> <td data-bbox="965 280 1396 336"> <p>■トレーサビリティ（写真） ■水耕栽培（写真） ■地産地消の説明（文章）</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 347 965 728"> <p>○これからの食料生産のためにどのような取組が行われているかを教科書や資料集から読み取り、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレーサビリティ 食品がいつ、どこでどのように作られ、店頭に並んだのか、消費者が確認できること →安全で安心な食料を売るため ・新しい技術を生かした食料づくり 安定した食糧の確保のために水耕栽培などを開発している。 →天候や土地に左右されずに食料を生産するため ・地産地消…経済面・環境面 地元で作った野菜を地元で消費すること →より新鮮な食材を、消費者が買えるようにするため →輸送費もあまりかからず、その分値段を安くするため <p>○調べて分かったことを「関係図」に書く。</p> </td> <td data-bbox="965 347 1396 728"> <p>・国内生産で、どのような取組をして生産の工夫をしているのかを理解することができた。「関係図」には、「トレーサビリティ」「水耕栽培」「地産地消」などキーワードを付せんに書き、「関係図」に貼った。</p> <p>・「関係図」に貼りながら前時までの学習と比較し、国内生産の工夫に気付いている児童がいた。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="247 728 1396 806"> <p>国内生産では、地元で作ったものを地元で消費しようという地産地消の取組や、トレーサビリティ、水耕栽培などが行われ、輸入に頼りすぎない様々な工夫や努力をしている。</p> </td> </tr> </table>	<p>学習課題 国内生産で取り組んでいる工夫について調べよう。</p>	<p>■トレーサビリティ（写真） ■水耕栽培（写真） ■地産地消の説明（文章）</p>	<p>○これからの食料生産のためにどのような取組が行われているかを教科書や資料集から読み取り、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレーサビリティ 食品がいつ、どこでどのように作られ、店頭に並んだのか、消費者が確認できること →安全で安心な食料を売るため ・新しい技術を生かした食料づくり 安定した食糧の確保のために水耕栽培などを開発している。 →天候や土地に左右されずに食料を生産するため ・地産地消…経済面・環境面 地元で作った野菜を地元で消費すること →より新鮮な食材を、消費者が買えるようにするため →輸送費もあまりかからず、その分値段を安くするため <p>○調べて分かったことを「関係図」に書く。</p>	<p>・国内生産で、どのような取組をして生産の工夫をしているのかを理解することができた。「関係図」には、「トレーサビリティ」「水耕栽培」「地産地消」などキーワードを付せんに書き、「関係図」に貼った。</p> <p>・「関係図」に貼りながら前時までの学習と比較し、国内生産の工夫に気付いている児童がいた。</p>	<p>国内生産では、地元で作ったものを地元で消費しようという地産地消の取組や、トレーサビリティ、水耕栽培などが行われ、輸入に頼りすぎない様々な工夫や努力をしている。</p>
<p>学習課題 国内生産で取り組んでいる工夫について調べよう。</p>	<p>■トレーサビリティ（写真） ■水耕栽培（写真） ■地産地消の説明（文章）</p>					
<p>○これからの食料生産のためにどのような取組が行われているかを教科書や資料集から読み取り、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トレーサビリティ 食品がいつ、どこでどのように作られ、店頭に並んだのか、消費者が確認できること →安全で安心な食料を売るため ・新しい技術を生かした食料づくり 安定した食糧の確保のために水耕栽培などを開発している。 →天候や土地に左右されずに食料を生産するため ・地産地消…経済面・環境面 地元で作った野菜を地元で消費すること →より新鮮な食材を、消費者が買えるようにするため →輸送費もあまりかからず、その分値段を安くするため <p>○調べて分かったことを「関係図」に書く。</p>	<p>・国内生産で、どのような取組をして生産の工夫をしているのかを理解することができた。「関係図」には、「トレーサビリティ」「水耕栽培」「地産地消」などキーワードを付せんに書き、「関係図」に貼った。</p> <p>・「関係図」に貼りながら前時までの学習と比較し、国内生産の工夫に気付いている児童がいた。</p>					
<p>国内生産では、地元で作ったものを地元で消費しようという地産地消の取組や、トレーサビリティ、水耕栽培などが行われ、輸入に頼りすぎない様々な工夫や努力をしている。</p>						
<p>まとめる（2時間）</p>						
6	<p>《ねらい》 今までの学習を基にして、調べて分かったことを比べたり関連させたりしながら、社会的事象の意味について考え、学習問題に対する自分の考えを書く。</p>					
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 929 965 974"> <p>学習課題 今までの学習を「関係図」に表し、学習問題に対する自分の考えをまとめよう</p> </td> <td data-bbox="965 929 1396 974"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 985 965 1265"> <p>○「関係図」を基に、本時までの学習を振り返る。</p> <p>○「関係図」にある付せんを見ながら、比較、分類、関連、総合し、どのようにまとめたのかを話し合う。</p> <p>○グループで集まり、話し合いながら調べて分かったことにはどのような特色、関連性、意味があるのかを考えてワークシートに書く。</p> <p>○学習問題に対する自分の考えを書く。</p> </td> <td data-bbox="965 985 1396 1265"> <p>・「関係図」の作成により、児童が「安全・安心のため」や「輸入しないと食料が不足してしまう」「環境に影響している」などについて考えることができた。</p> <p>・共通していることを線でつないだり、分類して整理したりして、特色や関連性、意味について考えたことで理解が深まったと言える。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="247 1265 1396 1377"> <p>輸入では、日本でとれないものや国産より安いものが手に入る。輸入しないと食料不足になってしまう。国内生産では新たな技術を使用し、安心・安全な食料を作るために努力している。日本の自給率が安定しているのは、安定して食料を確保するために食料不足にならないように輸入し、国内生産も輸入に頼りすぎないように、生産性を上げたり費用を下げたりするための工夫や努力をしながら生産しているからである。</p> </td> </tr> </table>	<p>学習課題 今までの学習を「関係図」に表し、学習問題に対する自分の考えをまとめよう</p>		<p>○「関係図」を基に、本時までの学習を振り返る。</p> <p>○「関係図」にある付せんを見ながら、比較、分類、関連、総合し、どのようにまとめたのかを話し合う。</p> <p>○グループで集まり、話し合いながら調べて分かったことにはどのような特色、関連性、意味があるのかを考えてワークシートに書く。</p> <p>○学習問題に対する自分の考えを書く。</p>	<p>・「関係図」の作成により、児童が「安全・安心のため」や「輸入しないと食料が不足してしまう」「環境に影響している」などについて考えることができた。</p> <p>・共通していることを線でつないだり、分類して整理したりして、特色や関連性、意味について考えたことで理解が深まったと言える。</p>	<p>輸入では、日本でとれないものや国産より安いものが手に入る。輸入しないと食料不足になってしまう。国内生産では新たな技術を使用し、安心・安全な食料を作るために努力している。日本の自給率が安定しているのは、安定して食料を確保するために食料不足にならないように輸入し、国内生産も輸入に頼りすぎないように、生産性を上げたり費用を下げたりするための工夫や努力をしながら生産しているからである。</p>
<p>学習課題 今までの学習を「関係図」に表し、学習問題に対する自分の考えをまとめよう</p>						
<p>○「関係図」を基に、本時までの学習を振り返る。</p> <p>○「関係図」にある付せんを見ながら、比較、分類、関連、総合し、どのようにまとめたのかを話し合う。</p> <p>○グループで集まり、話し合いながら調べて分かったことにはどのような特色、関連性、意味があるのかを考えてワークシートに書く。</p> <p>○学習問題に対する自分の考えを書く。</p>	<p>・「関係図」の作成により、児童が「安全・安心のため」や「輸入しないと食料が不足してしまう」「環境に影響している」などについて考えることができた。</p> <p>・共通していることを線でつないだり、分類して整理したりして、特色や関連性、意味について考えたことで理解が深まったと言える。</p>					
<p>輸入では、日本でとれないものや国産より安いものが手に入る。輸入しないと食料不足になってしまう。国内生産では新たな技術を使用し、安心・安全な食料を作るために努力している。日本の自給率が安定しているのは、安定して食料を確保するために食料不足にならないように輸入し、国内生産も輸入に頼りすぎないように、生産性を上げたり費用を下げたりするための工夫や努力をしながら生産しているからである。</p>						
7	<p>《ねらい》 学習問題に対する自分の考えを基に交流し、これからの食料生産をどのように進めていけばいいのか理解している。</p>					
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="247 1467 965 1523"> <p>学習課題 今までの学習を基にしてこれからの食料生産について考えよう。</p> </td> <td data-bbox="965 1467 1396 1523"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="247 1534 965 1691"> <p>○前時までの学習を想起する。</p> <p>○「関係図」を見ながら、学習問題に対する自分の考えを交流し、社会的事象の特色や相互の関連、意味についての理解を深める。</p> <p>○これからの食料生産について、自分の考えを書く。</p> </td> <td data-bbox="965 1534 1396 1691"> <p>■関係図</p> <p>・輸入の必要性や輸入に頼りすぎることなく安定した食料生産をしていかなければいけないことを理解していた。</p> <p>・「関係図」を基に考えたことで、輸入や国内生産の取り組みの意味（安心・安全のため、環境に影響があるなど）について考えることができ、輸入や国内生産が我が国の食料生産を支えていることを理解していた。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="247 1691 1396 1960"> <p>日本は、安全面や環境面を考慮して食料を生産したり、日本では生産できないものや国産よりも値段が安いものを輸入したりしている。それは、日本が安定して食料を確保するためにどちらも必要なことである。国内生産と輸入のどちらのよさも生かしながら食料生産を進めていくことが大切である。</p> </td> </tr> </table>	<p>学習課題 今までの学習を基にしてこれからの食料生産について考えよう。</p>		<p>○前時までの学習を想起する。</p> <p>○「関係図」を見ながら、学習問題に対する自分の考えを交流し、社会的事象の特色や相互の関連、意味についての理解を深める。</p> <p>○これからの食料生産について、自分の考えを書く。</p>	<p>■関係図</p> <p>・輸入の必要性や輸入に頼りすぎることなく安定した食料生産をしていかなければいけないことを理解していた。</p> <p>・「関係図」を基に考えたことで、輸入や国内生産の取り組みの意味（安心・安全のため、環境に影響があるなど）について考えることができ、輸入や国内生産が我が国の食料生産を支えていることを理解していた。</p>	<p>日本は、安全面や環境面を考慮して食料を生産したり、日本では生産できないものや国産よりも値段が安いものを輸入したりしている。それは、日本が安定して食料を確保するためにどちらも必要なことである。国内生産と輸入のどちらのよさも生かしながら食料生産を進めていくことが大切である。</p>
<p>学習課題 今までの学習を基にしてこれからの食料生産について考えよう。</p>						
<p>○前時までの学習を想起する。</p> <p>○「関係図」を見ながら、学習問題に対する自分の考えを交流し、社会的事象の特色や相互の関連、意味についての理解を深める。</p> <p>○これからの食料生産について、自分の考えを書く。</p>	<p>■関係図</p> <p>・輸入の必要性や輸入に頼りすぎることなく安定した食料生産をしていかなければいけないことを理解していた。</p> <p>・「関係図」を基に考えたことで、輸入や国内生産の取り組みの意味（安心・安全のため、環境に影響があるなど）について考えることができ、輸入や国内生産が我が国の食料生産を支えていることを理解していた。</p>					
<p>日本は、安全面や環境面を考慮して食料を生産したり、日本では生産できないものや国産よりも値段が安いものを輸入したりしている。それは、日本が安定して食料を確保するためにどちらも必要なことである。国内生産と輸入のどちらのよさも生かしながら食料生産を進めていくことが大切である。</p>						

VI 研究の成果

1 「授業デザイン図」の作成と活用

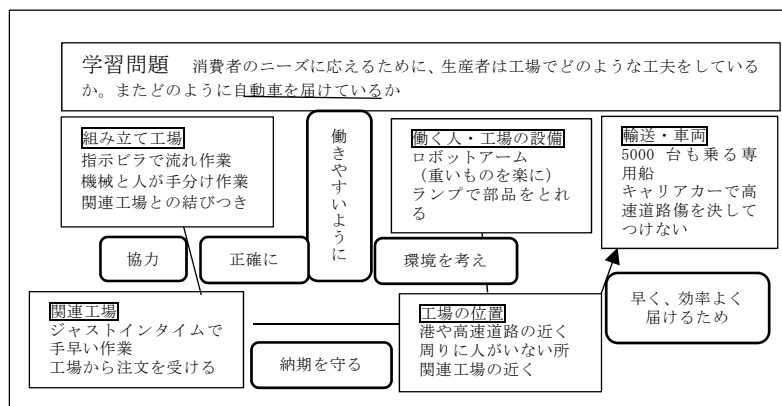
「ゴールの姿」を設定することで、単元を通して児童がどのような理解をすればよいかの分かり、「ゴールの姿」に基づいて学習問題の設定や使用する資料などを作成することができた。教師は完成した「授業デザイン図」に基づいた学習をすすめ、必要に応じて修正し、児童に「ゴールの姿」に向かって学習させることができた。

ねらいとしている「ゴールの姿」
日本は、 <u>安全面や環境面</u> を考えたものを生産したり、 <u>日本では生産できないものや国産よりも値段が安いものを輸入</u> したりしている。それは、日本が <u>安定して食料を確保するためにどちらも必要なこと</u> である。国内生産と輸入のどちらの良さも生かしながら食料生産を進めていくことが大切である。
A児の考えた「ゴールの姿」(児童の記述)
日本の食料生産はそのまま輸入を続ける必要があるが、国内生産を充実させていくことも必要である。 <u>天候の影響や日本ではとれないものもあるから</u> である。しかし、 <u>フードマイレージが高くなると環境にはよくないし</u> 、国内生産でも、 <u>トレーサビリティや地産地消</u> など工夫をしながら消費者のニーズに合うよう生産を高めていっている。 <u>国内生産が充実すれば輸入に頼りすぎずに安定して食料を確保できる</u> 。

____は安全面、____は環境面、____は輸入の必要性、____は安定した食料の確保についての記述である。教師がA児の記述を確認した際、4種類すべての下線を引くことができ、「ゴールの姿」に向かっていると評価することができた。

2 「関係図」の作成と活用

1 単位時間で獲得した知識(右図の□)を関連付け(線や矢印)、単元「自動車づくりにはげむ人々」では8割の児童が学習問題に対する自分の考えを書くことができるようになった。



● 「関係図」を書かなかった時のまとめ 単元「米づくりのさかんな地域」

おいしい米づくりをするためには、人の手だけではなく自然に任せている面もある。春になると流れる雪解け水は米づくりに適している。現在はほぼすべてを機械で作業するようになった。カモを飼うことで、水の管理だけでなく、害虫の駆除やふんによる栄養もあり、農家の人は安全に気を付けていた。外国産のお米との競争も激しい中で、高くても買ってもらえるように、品質のよい米づくりのために努力をしている。

● 「関係図」をもとにして書いたまとめ 単元「自動車づくりにはげむ人々」

自動車工場は、高速道路や港の近くに建っている。工場内では、作業員が働きやすいようにロボットアームなどを用意して生産するのと同時に多くの関連工場と協力して、早く届けようとしている。また、出荷では5000台もの車を乗せる船や、キャリアカーで輸送している。つまり、消費者のニーズに応えるために、早く、正確に、効率よく生産できるようにしている。

VII 研究の課題

- ・今後もどのような「ゴールの姿」を設定するのか、学習指導要領を基に十分に吟味し、検証を重ねていく必要がある。
- ・「関係図」を基にして、ねらいとしている「ゴールの姿」に児童が迫れるよう、さらに手だてや発問を工夫することが大切である。

情報を基に事實的知識から意味を見出し、 関連付けて社会的事象を深く理解する児童の育成

I 分科会研究主題設定の理由

主題を設定するにあたり、本分科会の研究員が担任する学級の社会的事象の理解についての実態を分析すると、読み取った情報からまとめた具体的な知識（以下、「事實的知識」とする）とその意味や、それら一つ一つを関連付けて理解を深めることで得る知識（以下、「概念的知識」とする）を身に付けていないことが明らかになった。

「元寇の影響」の学習を例に挙げると、児童は資料から戦いの様子や元軍の特徴を読み取ることはできていた。しかし、前時までに学習した「ご恩と奉公」の関係が鎌倉幕府を支えていたということと、元寇によりその関係が崩れたことを関連付けて、鎌倉幕府の力の衰えについて考えることができた児童は少なかった。

さらに記録を分析すると、理解した事實的知識と事實的知識を関連付けてまとめを書くための手だて、単元や1単位時間におけるまとめを書く場の設定が不十分であったこと、「ゴールの姿」を十分にイメージできていなかったことなどの問題があることが判明した。

また、「小学校学習指導要領解説 社会編」⁵の「指導計画の作成と内容の取扱い」には、「児童が社会的事象の見方・考え方を働かせ、調べ考え表現する授業を実現するためには、教師の教材研究に基づく学習問題の設定や発問の構成、地図や年表、統計など各種の資料の選定や効果的な活用、学んだ事象相互の関係を整理する活動などを工夫することが大切」と示されている。このことを踏まえ、児童に社会的事象相互の関係を結び付けて考えさせるための手だてについて検討を行った。そして、「ゴールの姿」を明確にした単元計画を作成して教師が授業を行うことや、毎時間の情報を基に理解した事實的知識とその意味を考えて付せんにまとめる活動や、単元の終末にそれらを関連付けて社会的事象相互の関係を整理する活動を取り入れることが、概念的知識の理解につながると考えた。

そこで、社会的事象相互の関係を整理するために以下の二点を手だてとして、研究を行った。

1 「授業デザイン図」の作成と活用

2 児童に、毎時間学習した情報と意味を付せんに記録させ、「まとめる」段階で、「関係図」に仕上げさせる。「関係図」づくりで思考したことを伝え合い、学習問題に対する自分の考えをもたせる。

以上のことから、6年分科会の研究主題を「情報を基に事實的知識から意味を見出し、関連付けて社会的事象を深く理解する児童の育成」と設定した。

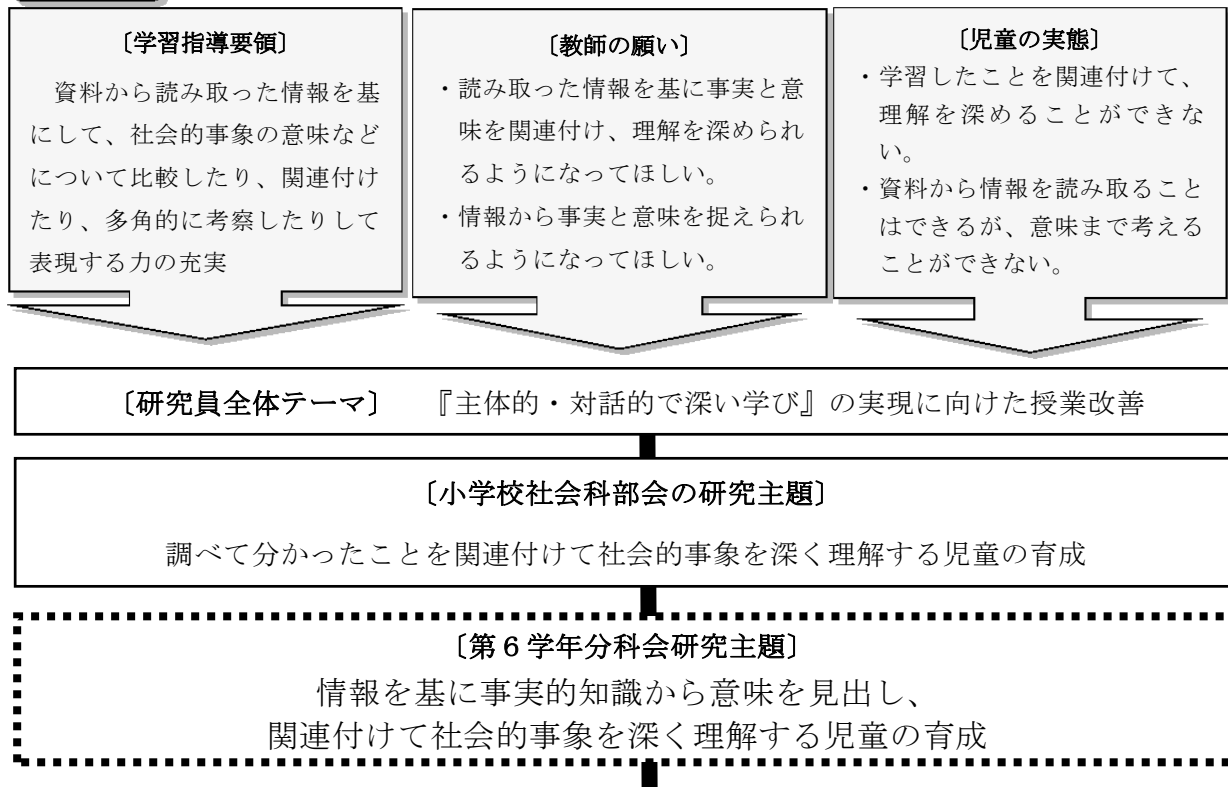
II 研究仮説

事實的知識とそれを基にして考えた意味を毎時間書き留めて「関係図」にまとめ、完成した「関係図」を活用して事象相互の関係を関連付け、伝え合うことで、社会的事象を深く理解することができるだろう。

⁵ 「小学校学習指導要領解説社会編」（文部科学省 平成29年6月）

Ⅲ 研究構想図

背景



仮説

事実に知識とそれを基にして考えた意味を毎時間書き留めて「関係図」にまとめ、完成した「関係図」を活用して事象相互の関係を関連付け、伝え合うことで、社会的事象を深く理解することができるだろう。

研究の内容

① 「授業デザイン図」の作成と活用

○「授業デザイン図」を作成し、①「授業を構想する」段階、②「授業をする」段階、③「授業を振り返る」段階の三つの段階で活用する。

② 「関係図」の作成と活用

○事象相互の関係を意識しながら学んだことを「関係図」にまとめ、完成した「関係図」を活用して事象相互の関係を関連付け、伝え合うことで、社会的事象の意味について考えることができるようにする。

目指す児童の姿

資料から読み取った情報を基にして事実に知識と意味を見出し、それらを「関係図」に表すことで社会的事象の意味について深く理解できる児童

IV 研究の内容

1 「授業デザイン図」の作成と活用

(作成の手順や活用方法は、4ページに掲載。「授業デザイン図」は、20ページに掲載。)

4ページ掲載の内容に加え、6年のデザイン図の「まとめる」段階には、関連付けた理由を表す言葉を、「関係図に書かせたい言葉」として示している。

2 「関係図」の作成と活用（「関係図」は、19ページに掲載。）

児童が単元の「まとめる」段階で社会的事象の意味を考えるためには、各1単位時間に分かった事実的知識や意味を互いに比較・分類・関連・総合させる活動を設定する必要がある。教師は、あらかじめ「関係図」のモデルを作成しておき、単元の「まとめる」段階で1単位時間ごとにまとめた付せんを活用した「関係図」を作成させる。そのよさとして、児童がそれまでの学習内容を1枚のワークシート上で全て見ることができたり、付せんに意図的に動かすことで思考したりすることが挙げられる。また、ワークシート上で線で結んだり、枠で囲み分類したりして、自分の考えをまとめることができる。また研究を進める中で、関係図の作成だけでは十分に深い学びを通しての概念的知識の獲得にはいたらないと考え、さらに世の中や人々に与えた影響を問う発問を行い、児童がその発問に対して考えたことを「学習問題に対する自分の考え」としてワークシートに書くよう改善を加えた。教師はこの記述から、児童が概念的知識を獲得し、深く理解をすることができているか見取ることができる。

以上のことから、「関係図」の作成と活用を取り入れることとした。

<「関係図」作成の手順>

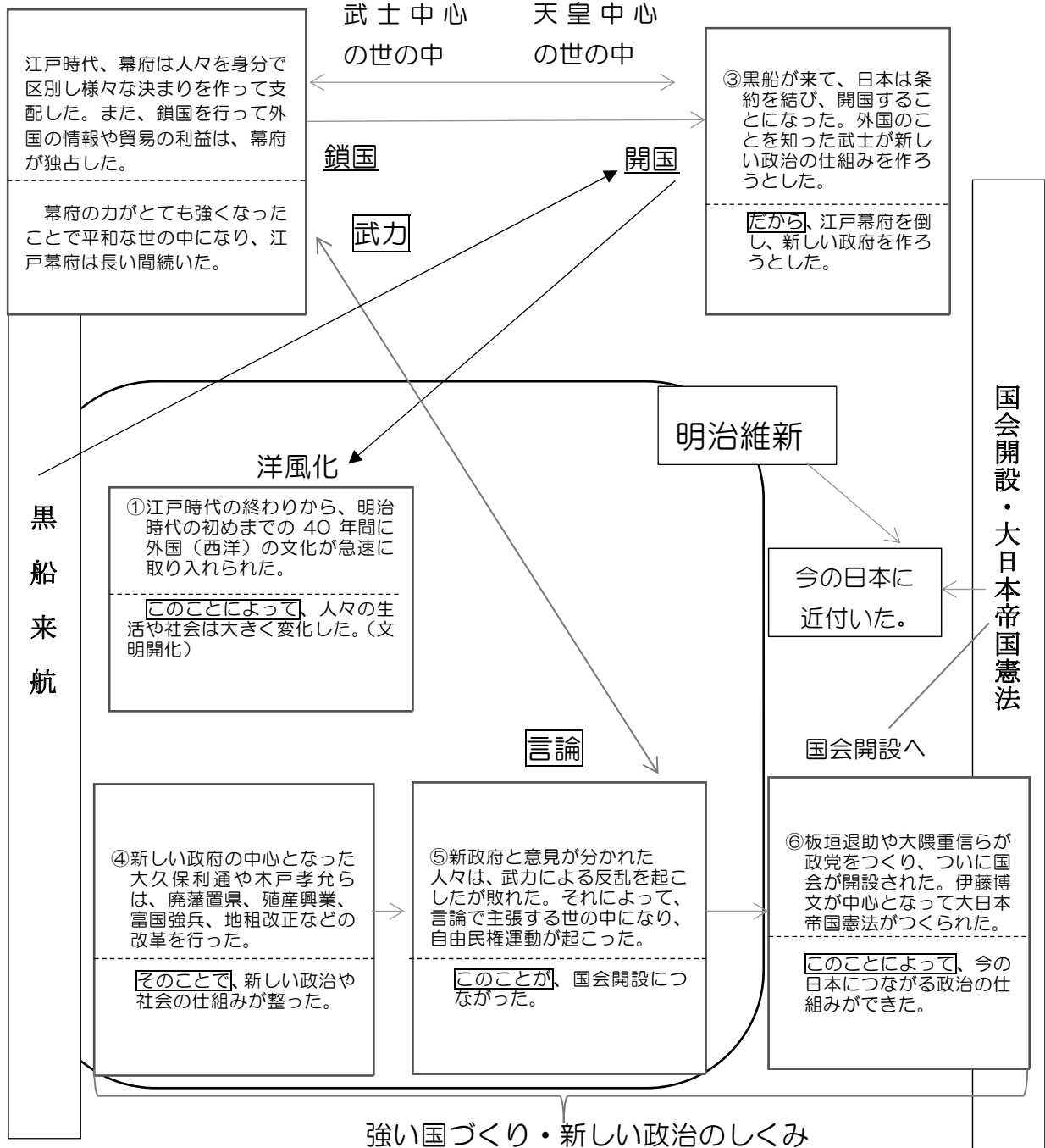
- ① 各1単位時間の学習で調べて分かった事実的知識とそこから考えた意味を付せんに書く。
- ② 付せんに書かれた情報や意味を関連付け、「関係図」を作成する。
- ③ 「関係図」作成後、ペアやグループで作成した「関係図」について意見を交流する。
- ④ 学級全体で、関連付けたことを確認する。
- ⑤ 「関係図」を基に、学習問題に対する自分の考えを書く。
- ⑥ ⑤で書かれた児童の記述を基に、学級全体で概念的知識となる内容を確認する。

<関係図を作成する時の決まり>

付せんに書く内容	資料から読み取った人物や出来事（事実的知識）と、そこから考えられる世の中や人々に与えた影響（意味）を書く。
付せんの色の使い分け	青色…前単元のまとめ 黄色…本単元の毎時間のまとめ
関連付けるポイント (線の結び方)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原因と結果、時の流れ（関連） ・ 似ている（比較・関連） 反対（比較） ・ 共通している、分類（総合・分類）
関連付けた理由を表す	結んだ線のそばに、事象相互の関係を表す言葉を書き込む。
学習問題に対する 自分の考え	毎時間のまとめを関連付けて分かる言葉と、それらを結びつけることで考えられる概念的知識を書く。

明治の国づくりを進めた人々 組 名前

学習問題
 わずか 40 年の間に何があったのだろう。



学習問題に対する自分の考え

黒船が来たことにより、日本は開国した。それにより、人々の生活が洋風化した。また、いろいろな改革で強い国づくりが行われる中で、武力から言論で主張する世の中に変わった。そして、自由民権運動が起こり、国会や憲法など新しい政治の仕組みができた。

つまり、明治維新によって、人々の生活や政治の仕組みが、今の日本の仕組みに近付いた。これを近代化という。

※口の中の接続語は、事実から見いだした意味を表現する際に活用するものである。

つかむ	資料	第1時	江戸の日本橋 (写真) → 明治の日本橋 (写真)		年表	【問い】 日本橋のまちの様子は、どこが変わったのだろう。 【まとめ】 江戸時代の終わりから、明治時代の初めまでの40年間に、外国(西洋)の文化が急速に取り入れられた。そのことによって、人々の生活が大きく変化した。これを明治維新という。	
	学習問題	第2時	わずか40年の間に何があったのだろう。 F1 長く続いた江戸時代が終わり、新しい時代になったと思う。 F2 新しい政治が始まったと思う。 F3 新しい政治が始まったと思う。 F4 新しい決まりが作られたと思う。				
調べる	問い	第3時	《江戸の終わり》 江戸幕府の政治はどのように終わり、明治時代はどのように始まったのだろう。	第4時	《明治政府の政治》 どのような政治が行われたのだろう。	第5時	《不満をもつ人々》 新政府に反対する人々は、どのような行動を起こしたのだろう。
		資料	<ul style="list-style-type: none"> 黒船(絵) ペリー(肖像画) 日米和親条約(文書) 日米修好通商条約(文書) 五箇条のご誓文(文書) 	<ul style="list-style-type: none"> 大久保利通(肖像画) 廃藩置県(文書) 四民平等(文書) 	<ul style="list-style-type: none"> 板垣退助(肖像画) 西南戦争(映像) 演説の中止を求める警察官(絵) 	<ul style="list-style-type: none"> 大日本帝国憲法 初めての選挙の様子(絵) 	
	まとめ	まとめ	A1 黒船が来て、日本は条約を結び、開国することになった。新しい政治の仕組みを作ろうとした。 だから江戸幕府を倒し、江戸幕府より強い政府が必要と考えた武士が新しい政府を作ろうとした。	A2 新しい政府の中心となった大久保利通は、強い国づくりを進め、改革を行った。 そのことで新しい政治や社会の仕組みが整った。	A3 新政府と意見が分かれた人々は、武力による反乱を起こしたが破れた。 それによって言論で主張する世の中になり、自由民権運動が起こり、国会開設につながっていった。	A4 板垣退助や大隈重信らが政党をつくり、伊藤博文が中心となって大日本帝国憲法がつくられた。 このことによって今の日本につながる政治の仕組みができた。	
		まとめ	【関係図に書かせたい言葉】	・鎖国から開国へ ・強い国づくり ・武力から言論へ ・生活の洋風化 ・明治維新 ・大日本帝国憲法 ・国会開設 ・今の日本に近づく			
まとめ	学習問題に対する自分の考え	黒船が来たことにより、日本は開国した。それにより、人々の生活が洋風化した。また、いろいろな改革で強い国づくりが行われる中で、武力から言論で主張する世の中が変わった。そして、自由民権運動が起こり、国会や憲法など新しい政治の仕組みができた。 つまり、明治維新によって、人々の生活や政治の仕組みが、今の日本の仕組みに近付いた。これを近代化という。					

V 実践事例 (1) 単元「明治の国づくりを進めた人々」(7時間)

児童の記述

分析

<学習指導計画と実践記録>

時数	○学習活動	■資料
つかむ (2時間)		
1	<p>《ねらい》 江戸時代末期と明治時代初期の日本橋の様子を比較し、世の中の変化に関心をもつ。</p> <p>学習課題 日本橋のまちの様子は、どこが変わったのだろう。</p> <p>○江戸時代の日本橋の様子と明治時代の日本橋の様子を比べて、分かったことや考えたことを話し合う。</p> <p>○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>約40年間に身なりや町の様子が変わってきた。そのことによって人々の生活が大きく変化した。このことを明治維新という。</p>	<p>■江戸時代末期の日本橋近くの様子(絵)</p> <p>■明治時代の初めの日本橋近くの様子(絵)</p>
	<p>《ねらい》 文明開化から江戸から明治への変化から学習問題を見だし、学習問題について予想し、学習計画を立てる。</p> <p>学習課題 学習問題を見だし、その予想から学習計画を立てよう。</p> <p>○資料を見て明治になって変わったことを調べ、調べたいことを学習問題としてまとめる。</p> <p>学習問題 わずか、40年の間に何があったのだろう。</p> <p>○学習問題に対する予想などを発表し合い、学習計画を立てる。</p>	<p>■明治事始め(年表)</p>
調べる (4時間)		
3	<p>《ねらい》 開国をきっかけとして、江戸幕府より強い政府が必要と考えた武士たちが幕府を倒したことを理解する。</p> <p>学習課題 江戸幕府の政治はどのように終わり、明治時代はどのように始まったのだろう。</p> <p>○倒幕を調べ、新しい世の中に変わっていった過程を話し合う。</p> <p>○明治維新の中心となった人物について調べる。</p> <p>○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>ペリーが来航し、日本は不平等な条約を結び、開国した。外国のことを知った西郷や大久保などが立ち上がり、江戸幕府を倒した。</p>	<p>■黒船の絵、ペリーの肖像画</p> <p>■日米和親条約、日米修好通商条約(文章)</p> <p>■五箇条のご誓文(文章)</p> <p>「関係図」に、付せんの色を変えた江戸時代のまとめと本時のまとめを比較させ、変化を捉えさせた。</p>
	<p>《ねらい》 大久保利通らが富国強兵を進めたことの意味を考え、表現する。</p> <p>学習課題 どのような政治が行われたのだろう</p> <p>○欧米に学んだ大久保利通らが、どのような国づくりを目指したのかを調べ、分かったことや考えたことをまとめる。</p> <p>○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>大久保利通ら明治政府は、日本を強い国にするために、富国強兵を目的に政策を立て、それにより強い国にすることを進めた。</p>	<p>■大久保利通(肖像画)</p> <p>■廃藩置県、四民平等(文章)</p> <p>前時の学習から「強い国づくり」を目指していると考えている児童は60%いた。</p>
5	<p>《ねらい》 資料から自由民権運動に関わる人々の考えを読み取る。</p> <p>学習課題 新政府に反対する人々は、どのような行動を起こしたのだろう。</p> <p>○政府の改革に不満をもつ人々の行動について調べる。</p> <p>○武力による反乱から言論で主張するようになってからの、板垣退助と自由民権運動について調べる。</p> <p>○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>新政府に反対する人たちは反乱を起こし敗れた。それによって言論で主張する世の中へと変わっていった。また、自由民権運動が起こり、国会開設へとつながった。</p>	<p>■板垣退助(肖像画)</p> <p>■西南戦争(映像)</p> <p>■演説の中止を求める警察官(絵)</p> <p>「授業デザイン図」により、獲得させたい具体的知識が分かり、「関係図」づくりに必要となる言葉を引き出すことができた。</p>
	<p>《ねらい》 国会開設を通して、伊藤博文が目指した国づくりについて考え、表現する。</p> <p>学習課題 国会開設のために、どのような政治の仕組みをつくったのだろう。</p> <p>○各地でつくられた憲法案や伊藤博文がつくった憲法案について調べる。</p> <p>○伊藤博文の思いについて考える。</p> <p>○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>国会開設のために政党が作られ、中でも伊藤博文が中心になって大日本帝国憲法をつくったことによって、日本の仕組みが大きく変わった。</p>	<p>■大日本帝国憲法(要約、文章)</p> <p>■初めての選挙の様子(絵)</p> <p>事実とその意味を考え、「これにより〜」「だから〜」等を用いて、表現できた児童が60%ほどになった。</p>
6	<p>《ねらい》 国会開設を通して、伊藤博文が目指した国づくりについて考え、表現する。</p> <p>学習課題 国会開設のために、どのような政治の仕組みをつくったのだろう。</p> <p>○各地でつくられた憲法案や伊藤博文がつくった憲法案について調べる。</p> <p>○伊藤博文の思いについて考える。</p> <p>○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>国会開設のために政党が作られ、中でも伊藤博文が中心になって大日本帝国憲法をつくったことによって、日本の仕組みが大きく変わった。</p>	<p>■大日本帝国憲法(要約、文章)</p> <p>■初めての選挙の様子(絵)</p> <p>事実とその意味を考え、「これにより〜」「だから〜」等を用いて、表現できた児童が60%ほどになった。</p>

まとめる (1時間)	
7	《ねらい》 学習問題について調べてきたことを「関係図」を用いて関係付ける活動を通じて、明治維新により近代化を進めていく様子を理解する。
	学習課題 今までの学習を関係図に表しながら、学習問題に対する自分の考えを書こう。
	○各時間のまとめを「関係図」を用いて整理し、学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ■模造紙に書いたまとめ(画用紙) ■扱った人物(絵・写真)
	黒船が来たことにより、日本は開国した。それにより、人々の生活が洋風化した。また、いろいろな改革で強い国づくりが行われる中で、武力から言論で主張する世の中が変わった。そして、自由民権運動が起こり、国会や憲法など新しい政治の仕組みができた。 つまり 、明治維新によって、人々の生活や政治の仕組みが、今の日本の仕組みに近付いた。これを近代化という。
「関係図」を用い、学習した歴史的事象のつながりを考えさせることで、学習問題に正対した自分の考えをまとめさせることができた。日本は、黒船の来航をきっかけに、政治の仕組みを整え、近代化を目指したことを理解することができた。	

(2) 単元 「戦争と人々の暮らし」 (9時間)

<学習指導計画と実践記録>

児童の記述	分析
-------	----

時数	○学習活動	■資料
つかむ (2時間)		
1	《ねらい》 戦前・戦後の銀座の変遷や年表から昭和初期のできごとに関心をもつ。	
	学習課題 銀座の様子の変化を読み取り、この時期に起こったことを話し合おう。	
	○戦前から戦後の銀座の様子の変化を比べ、分かったことや考えたことを話し合う。 ○資料から当時、戦争があったことを確かめる。	■昭和初期の銀座 ■戦後の銀座 ■年表
2	《ねらい》 昭和初期の主な出来事について資料から読み取り、疑問をまとめて学習問題を見いだす。学習問題について予想し、学習計画を立てる。	
	○年表にある主な出来事について調べ、学習問題を見いだす。	■年表
	学習課題 学習問題を見だし、学習問題についての予想をもとに学習計画を立てよう。	
	学習問題 日本はどのように戦争を進めていったのだろうか。また、戦争によって人々はどんな影響を受けたのだろうか。	
	○学習問題に対する予想や調べ方などを発表し合い、学習計画を立てる。	
調べる (5時間)		
3	《ねらい》 満州事変について調べ、日本は国際社会から離れ、中国との戦争が始まったことを理解する。	
	学習課題 中国との戦争はどのように進んでいったのか調べよう。	
	○年表等の資料から日本と中国の戦争について調べる。 ○学習のまとめを付せんんに書く。	■年表 ■地図
	考えられる影響 日本は国際連盟を脱退した。日中戦争が始まった。日本は戦争を始め、世界から離れていった。	
4	《ねらい》 戦争がアジア・太平洋地域に拡大したことを資料を活用して調べ、アメリカ等の連合国と戦うことになったことや諸外国に損害を与えたことを理解する。	
	学習課題 アメリカなど、連合国との戦争はどのように進んでいったのか調べよう。	
	○戦争の広がりの様子を地図で調べる。 ○学習のまとめを付せんんに書く。	■年表 ■地図
	考えられる影響 日本はアジア・太平洋地域の各地でアメリカをはじめとする連合国と戦った。その際、アジア・太平洋地域の各地で暮らす人々にも損害を与えた。	児童は当時のアジア・太平洋地域の様子を本時のまとめに記述していた。「関係図」の作成では、つながりを意識して前時の学習のまとめの近くに本時の学習のまとめを貼付け、関係性を示すことができていた。

5	<p>《ねらい》 国民生活が戦時体制へ移行したことについて資料を活用して調べる。</p> <p>学習課題 戦時中の人々の生活の様子を調べよう。</p> <p>○戦時中の暮らしを調べる。 ○当時の国民生活について調べる。 ○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>政府が切符を配って物を配給した。国の命令で兵隊に行った。考えられる影響国民も戦争のために様々な協力をした。戦争中心の考えや生活になった。</p>	<p>■各種切符 ■召集令状 ■町の標語</p> <p>「授業デザイン図」で本時は、国民生活を扱うことを授業者が意識していたので、社会の様子や大人の様子に焦点化して指導することができた。</p>
6	<p>《ねらい》 子供の生活も戦時体制へ移行したことについて、資料を活用して調べる。</p> <p>学習課題 戦時中の子供の生活の様子を調べよう。</p> <p>○戦時中の子供の生活の様子を調べる。 ○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>親から離れて集団疎開をした。学校の授業が戦争に関わる内容になった。工場で働いた。考えられる影響国民全体が戦時体制になった。</p>	<p>■疎開日記 ■戦時中の教科書 ■絵本</p> <p>「授業デザイン図」で本時は、子供の生活を扱うことを授業者が意識できた。全児童が子供も戦時体制になったことを学習のまとめに記述できた。</p>
7	<p>《ねらい》 戦争による被害について調べる。</p> <p>学習課題 戦争による被害を調べよう。</p> <p>○戦争によって国民が受けた被害について資料を活用して調べ、ノートに書く。 ○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>全国に空襲が広がり、沖縄は戦場になった。広島・長崎に原爆が落とされ日本は降伏した。考えられる影響日本中で大勢の人が亡くなったり建物が壊れたりするなどの大きな被害が出た。日本は降伏した。</p>	<p>■空襲の被害 ■沖縄戦や原爆投下に関する資料</p> <p>学習のまとめの記述において、日本国内でも大きな被害が出た事実気付いた児童が5割以上いた。戦後はどうやって復興したのかという新たな疑問をもつ児童もいた。</p>
<p>まとめる (2時間)</p>		
8	<p>《ねらい》 原爆ドームのもつ意味について考え、戦争遺産を受け継ぐことや平和を願うことの大切さについて関心を高める。</p> <p>○原爆ドームについて詳しく知らないことに気が付く。</p> <p>学習課題 原爆ドームはどのような施設なのか調べよう。</p> <p>○原爆ドームを保存する活動について調べる。 ○学習のまとめを付せんに書く。</p> <p>広島市民は戦争があったことを忘れないようにするためや同じことが繰り返されないようにするために原爆ドームを残した。戦争の悲しみを乗り越えて平和の大切さを伝えるために市民の手で残すことを決めた。</p>	<p>■原爆ドーム ■原爆ドーム周辺 (写真) ■広島市保存決議</p> <p>児童のまとめの付せんには「未来のため」という記述があり、戦中から戦後へと思考が転換されたことが分かった。</p>
9	<p>《ねらい》 ・学習問題について調べてきたことを「関係図」を用いて関係付ける活動を通じて、戦争によって人々は大きな被害を受けたこと、その後日本全体で平和を目指すようになったことを理解する。</p> <p>学習課題 今までの学習内容を「関係図」に表しながら、学習問題に対する自分の考えを書こう。</p> <p>○学習の振り返りをし、各時間で学習した歴史的事象とその意味を「関係図」を用いて整理し、発表し合う。 ○「日本はどのように戦争を進めていったのだろう」に対する自分の考えを「関係図」に書き、意見交流する。 ○「戦争によって人々はどんな影響を受けたのだろう」に対する自分の考えを「関係図」に書き、意見交流する。</p> <p>日本は中国やアメリカと戦争し、各地で戦争による大きな被害がでた。最終的に、日本が降伏し戦争が終わった。戦時体制で人々は苦しい生活を送り、空襲などで大きな被害を受けた。戦後、日本の人々は原爆ドームを残すなど、平和を願う活動を始めた。</p>	<p>全ての児童が、学習してきた歴史的事実とその意味を不足なく盛り込んで自分の考えを表現することができた。戦争の惨禍の意味を考え、平和へつなげるための遺産としての意味付けをすることができた。これは「関係図」を用いて各時間毎に学習したことを関連付けながら思考した成果である。</p>

VI 研究の成果

1 「授業デザイン図」の作成と活用

「授業デザイン図」を作成することで、「ゴールの姿」とそこへ向かう手だてが明確になり、「一単位時間の中で理解したその意味を考えて事象を深く理解させる」こと、そのために、「社会的事象が世の中や人々に与えた影響を問う発問をする」など、一貫性のある指導を行うことができた。常に「授業デザイン図」を意識して授業を行い、どのように「ゴールの姿」に近づければよいかを考え、指導することができた。そのため、学級の8割以上の児童が「ゴールの姿」に到達することができた。

単元「戦争と人々の暮らし」 学習問題に対する児童の考えの例	
日本は中国と戦争を始め、世界中でも戦争が始まった。その後日本が降伏し、戦争は終わった。戦争中は学生が戦争に参加したり、多くの子供が影響を受けたりした。戦争が激しくなっていくと多くの人が戦争中心の生活を送るようになり、様々な面で協力していた。空襲や原爆の投下、沖縄での地上戦などでは大きな被害を受けることがあった。	

2 「関係図」を用いた学習のまとめ

一単位時間の学習で調べて分かったこと、またそこから考えられる意味を書いた付せんを活用し、単元のまとめの活動の際に「関係図」を作成した。「関係図」を用いたまとめを行う以前と比較すると、児童は単なる事実の羅列ではなく、自分の言葉でまとめを書けるようになった。また、情報から調べ理解した事実のみを書いていた児童が社会的事象の意味を考えられるようになり、概念的知識を理解する児童が増えた。

	単元「天皇中心の国づくり」	単元「明治の国づくりを進めた人々」
A 児	聖武天皇は中国の先進的な皇帝中心の政治の仕組みを学ばせ、新しい国づくりに役立てた。聖武天皇は、仏教を広めるために中国から鑑真というすぐれた僧を招いた。	欧米諸国に追いつくための大久保利通や伊藤博文の努力や活躍によって、日本の近代化が進んだ。
B 児	聖徳太子が亡くなった後、中大兄皇子と中臣鎌足が、天皇を中心とする国づくりをした。	約40年の間に、ペリーが来て鎖国が終わり、外国と条約を結んだ。江戸幕府が倒れ、明治維新が行われた。そして、武力から言論へと世の中が変わっていき、近代社会に近付いた。

以前は、学習問題に対して一時間ごとのまとめを書くだけであったが、「関係図」を用いてまとめの活動を行うことで、記録された事実と意味を関連させて記述するようになった。

VII 研究の課題

- ・ 児童が社会的事象の理解を深めるための、付せんに書く内容について更なる検討が必要である。
- ・ 「関係図」を作成する際に、関連付ける視点が「事実－事実」、「事実－意味」、「意味－意味」など、児童によって様々であった。児童が深い理解に到達するために、視点をより明確にする必要があったのか、検証を継続し考察する必要がある。

平成 29 年度 教育研究員名簿

小学校・社会

第 3 学年及び第 4 学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
練馬区立旭丘小学校	主幹教諭	○ 飯塚 将史
町田市立高ヶ坂小学校	主幹教諭	上高原 貴之
大田区立東六郷小学校	主任教諭	金子 剛
世田谷区立経堂小学校	主任教諭	吉岡 泰志
中野区立上鷲宮小学校	主任教諭	野口 妙子
足立区立鹿浜五色桜小学校	主任教諭	渡邊 要
羽村市立富士見小学校	主任教諭	岸田 淳一

第 5 学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
墨田区立中川小学校	主幹教諭	○ 西 行二
千代田区立麴町小学校	主任教諭	伊藤 陽平
東村山市立化成小学校	主任教諭	浪間 剛

第 6 学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
品川区立中延小学校	主任教諭	○ 大口 高史
板橋区立志村小学校	主任教諭	田中美智子
練馬区立仲町小学校	主任教諭	柿沼 志保
八王子市立第五小学校	主任教諭	◎ 名取 慶
東村山市立大岱小学校	主任教諭	大塚 徹

◎全体世話人 ○分科会世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 山崎 禎久

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

小学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社